

現代インドネシアにおける男性の育児をめぐる言説
— 「母乳の父親」の男性性—

Discourse on Men in Childcare in Modern Indonesia: Masculinity of “Breast Father”

西川 慧 (東洋大学)

NISHIKAWA Kei (Toyo University)

本発表の目的は、男性による育児を支援する運動「母乳の父親」(Ayah ASI) を取り上げジェンダーの視点から分析することで、同運動が提示する男性像の特徴と現代インドネシアにおける意義を明らかにすることである。

近年のインドネシアでは、国内外のフェミニズム運動の高まりや、就労構造の変化による女性の社会進出を背景として、男性が積極的に家庭内での役割を引き受けるようになっていくことが指摘されている。ただし、その一方では都市中間層の人びとのあいだで、宗教的な規範のより厳格な適用を求めるイスラーム主義に共鳴する人びとが増加しており、ジェンダー間の平等の理念を拒否し、家庭内の役割を全面的に女性へ割り振ろうという動きも見られる (Smith-Hefner 2018)。

本発表では、以上のようなジェンダーをめぐる現代のインドネシアの状況を踏まえたうえで、SNS などを中心に行われている「母乳の父親」運動を取り上げ、その意義について考察したい。「母乳の父親」運動は、男性のより積極的な育児参加を推進するために開始された。その創始者は男性の若手映画俳優やコピーライターらである。彼らは 2011 年から活動を開始し、自らの育児体験を広めるための書籍を出版したほか、ソーシャル・メディアで育児に関する悩み相談を行っている。

彼らの運動において興味深いのは、「母乳」(ASI: Air Susu Ibu) という語を冠していることから分かるように、母乳育児を積極的に推し進め、可能な限り完全母乳での育児を推奨しており、粉ミルクの使用には否定的な点である。本発表では、「母乳の父親」運動の創始者へのインタビューをもとに、同運動の理念においてジェンダー平等と「オーガニック信仰」が結びついていること、そのために母乳を与える母親と、それをサポートする父親という役割分担が明確に提示されていることを明らかにしたうえで、そこで示される男性性の特徴について論じたい。

参考文献

Smith-Hefner, Nancy J. “From Soft Patriarch to Companionate Partner: Muslim Masculinity in Java since “New Order”,” in Inhorn, Marcia C. and Nefissa Naguib (eds.), *Reconceiving Muslim Men: Love and Marriage, Family and Care in Precarious Times*, New York and Oxford: Berghahn.